の社なるべしとある人のいへる。さることなるべし。ここかしこ見巡るに、八重桜の花所々に咲きたるを、見て詠める。

飽かずなお哀れとぞ見る知る人は夏の深山の八重桜花。

のちに咲く甲斐はありけり今日のこのここらの人に飽かず見られて　鶯のここら鳴きけるを聞きて、

奥山はなお春深く咲き匂ふ花の木陰に鶯の鳴く。

ほととぎす多ほかるところと聞けど鳴かざりければ詠める。

花咲けるかぎりは春と思へばやまだ訪れぬ

の社奈るべしと。ある人能いへ累さること奈るべし。古ゝ加しこ見めぐ類尓。八重桜の花所々尓。さ起堂るを見てよ免る。

あ可春猶阿者れと楚見る志る人盤夏能ミや満の八重桜花。

能ち尓さくかひ盤あ里ケ利気ふのこ能こゝら能人尓あ可春見ら礼て。うぐひす能古ゝら鳴ケるを聞亭。

おく山盤猶春ふ可く咲匂ふ花のこ可気尓うぐひす能奈く。ほとゝ幾春お本可るとこ路ときケ登。鳴ざり気れ盤よ免る。

花さける可起利ハ春と思へ者やま多おとづれぬ

13

山ほととぎす。

消え残る雪を垣根の卯の花と見つつ鳴かなん

山ほととぎす。

咲く花に山ほととぎす鶯の声こき混ぜて鳴かせてしがな。

まことやこの山の佇ひは、富士の山に似たれば世に伯耆(ほうき)富士となんいへりける。見(けん)のよろしきところは、出雲国松江の大橋の上、次には弓の浜なり。下りもて行くほど真下に日野川帯の如くに見おろされ、出雲国三穂の崎、隠岐の島大海の雲居(くもゐ)につづくかぎり見渡されておもしろし。立ち止まり帰り見して、

山本とゝぎ須。

きえのこる雪を可起ねの卯能花と見つゝ奈可那ん

山保とゝぎ須。

咲花尓山本とゝぎ須うぐひ春の声こ起まぜて鳴せてし可那。まこ登や此山の堂ゝ春まひハ。富士の山尓似多れバ世尓はゝき不尽と奈ん以遍利気る。見のよろし起所ハ。出雲国松江の大橋の上。つ起尓盤弓の浜な里。久多里毛てゆくほどまし多尓。日野川帯の古とく尓見おろさ連。出雲国三穂のさ起。おきの島。大海能雲ゐ尓つゞく可起り見王多されてお毛しろし。立とま里可へ里見し亭。

14

葦原の国つくりして御勲を仰げば高し

大神の山　と詠みて、おほなおほな遙かに拝みまつりて、帰るさに赤松の池を見に立ち寄る。おかみ（水神）の隠りける池なりといへり。日暮れて尾高村に来て、松点させて亥時ばかりに田口老翁が家に帰りて粥など食うべて、足疲れたればやがて打ち臥しぬ。

二十五日　昨日の山路の嶮しきに疲れたれば、朝寐して日長けて起き出づ。今日は空いとよく晴れたり。昨日道にて契りおきしことあれば、迎ひに物せんと待ちわたるに、申時ばかりに田代恒親の許よりぞ迎ひ

あし原能国つくりししみ以さをゝあふ気ハ高し

大神の山。とよみて、お本奈〳〵者る可にを可ミまつ利亭。可へるさ尓赤松の池を見尓立よる。お可みのかくり気る池奈里と以遍利。日くれて尾高村尓きて。松登毛させ亭亥時者可利尓。田口老翁可家尓可へ里天。可ゆ奈ど多うべ天。足つ可れ多連バや可て打ふしぬ。

廿五日　気能ふの山路乃さ可し起尓徒可れ堂連バ。朝寐し亭日堂け天お起以づ。気ふハ楚ら以と与くは連多連多里。きのふ道尓亭知起利おきしこ登あれバ。む可ひ尓毛のせんとまち王多るに。申時者可里尓田代恒親の毛とよ利ぞむ可ひ

15

に人おこせたりける。打ち連れて立ち出づ。日の暮れ方にからうじて、日野川の仮初めなる棚橋を渡り、夜になりて米子に来て、即ち例の人々の宿りを訪らひけるに、今日は山辺といふところに物して、まだ帰らずといふ。田代恒親が許に来て、去年よりの物語何くれとしつつおるに、横田朗ここにおのれが来たりけるよし聞きつけて、訪らひ来ければ、思ほえず夜ふけて臥しぬ。

二十六日　朝小林茂訪らひ来て、昨日は清水寺ならであだしところに物して、得なん迎ひには物せざりける。いざ今日は清水寺より粟島かけて、舟にて物せんといへど林宣

尓人おこせ堂利気る。打つ連て立以づ。日のくれ可多尓からうじて。日野川の可里楚め奈る堂那橋を王多里。夜尓な里天米子尓き亭。す那ハ知例の人々能やど里をとふらひケるに。気ふハ山辺と以ふとこ路尓物してま多可へら春と以ふ。田代恒親可毛登尓きて。去年よ利能物語何くれとしつゝをる尓。横田朗。こゝ尓おの連可き堂利気るよし。聞つ希てとふらひき気れバ。おも本え受夜ふけて婦しぬ。

廿六日　朝小林茂とふらひきて。昨日盤清水寺奈らで、阿多しところ尓物して。え奈んむ可ひ尓盤物勢ざ利気る。以ざ気ふハ清水寺よ里粟島可けて舟尓亭物世んと以へど